

ストック効果

フロー効果とストック効果

社会資本の整備は、大きく分けてフロー効果とストック効果という2種類の効果があります（図1参照）。

フロー効果（需要創出効果）とは、社会資本整備のために投資が行われることで、一時的に建設業など工事に関連する産業の生産活動が高まる等の経済効果のことで、公共投資の事業実施に伴うお金の動きにより、生産、消費、雇用等の経済活動が派生的に創出され、経済全体が拡大されます。

ストック効果（施設供用効果）とは、整備された社会資本が機能して、長期的にその地域の生産性や安全性を向上させたり、生活環境を改善するなどの効果のことであり、社会資本そのものが発揮する効果といえます。

国土交通省では、我が国の経済成長等の実現のため、社会資本整備の本来の目的であるストック効果が最大限発揮されるよう、取り組みを進めていくこととしています。

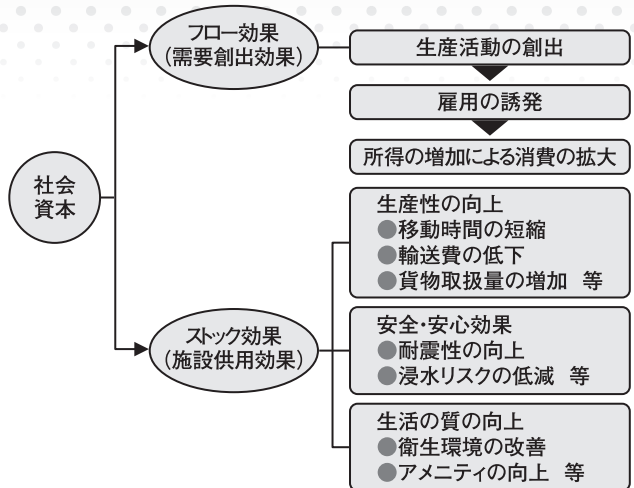


図1 社会資本の効果（フロー効果とストック効果）

国産材輸出量が急増しました。さらに日向市では、ここ10年間で39件の企業立地がありました。当然ながら地元の努力などがこれにむすびついたものですが、細島港における物流効率化の取り組みも大きく貢献しています。

(2) 山形県酒田市の酒田港のインフラが決め手となり 大手「紙おむつ」メーカーが新工場建設（図3参照）

また、山形県酒田市に所在する大手「紙おむつ」メーカーは、中国等の急速な需要拡大に対応するため、「乳幼児用紙おむつ」の増産・国内生産拠点化を計画しました。酒田への進出の決め手となったのは、酒田港のインフラ、港へのアクセスの良さが挙げられ、さらにガントリークレーンの増設などによる利便性向上が後押ししています。新工場進出により新規雇用が発生、また、コンテナ貨物量が増加し、それにより定期コンテナ航路が週2便から週7便となり、更に酒田港の利便性が向上するなど好循環が生まれています。

港湾におけるストック効果の事例

(1) 宮崎県日向市細島港の整備による木材産業の生産活動の活性化（図2参照）

宮崎県日向市の細島港では、区域内の広大な工場用地を比較的低コストで短期間に確保可能であったことや、2011年からの国際物流ターミナルの整備の進展による物流面での投資環境の整備により、大手製材メーカーが進出しました。また、細島港を活用することで、

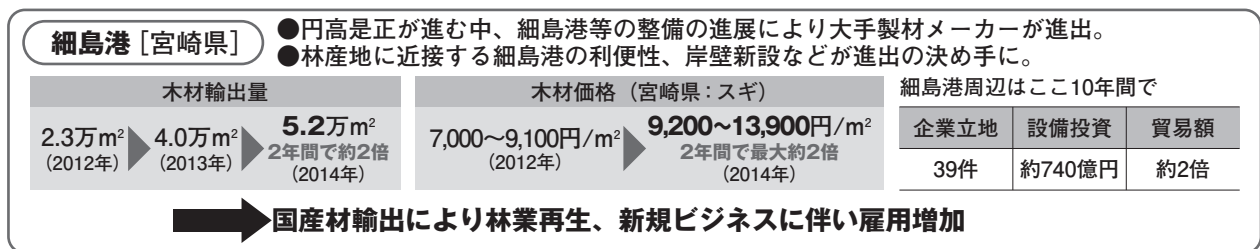


図2 細島港の事例

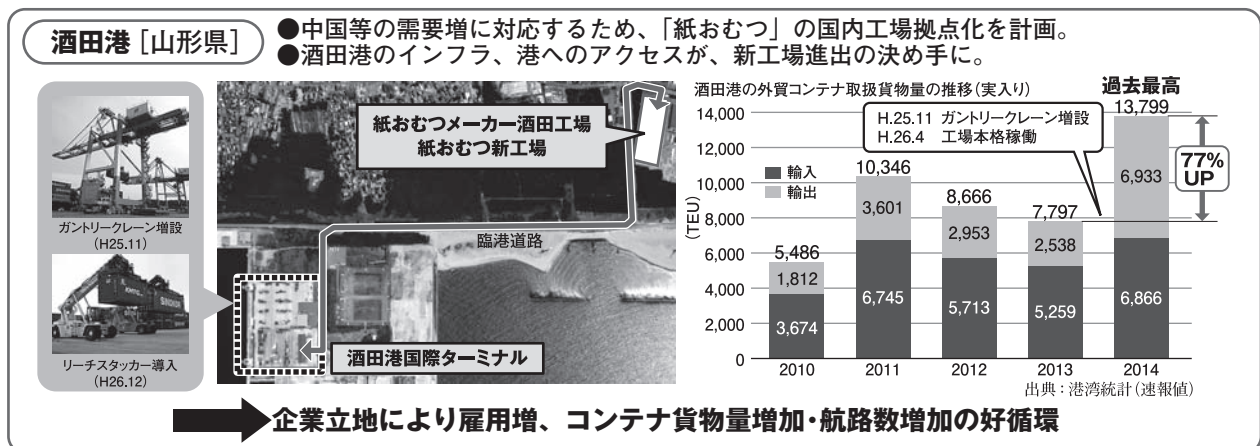


図3 酒田港の事例